

NPO 法人 ベターコミュニケーション研究会、理事長・中園秀喜

想像してみてください。2011年3月11日、約2万人の死亡・行方不明者を出した東日本大震災から2年あまりが経過しました。津波、原子力爆発、停電、計画停電など様々なことがありました。一方、南海トラフ、巨大地震、死傷者数32万人、220兆円、避難950万人。30年以内に起きる確率70%……も予想されています。災害をゼロにすることは困難としても減災につながる提案をさせていただきます。例えば、普通、捜索活動は日没と同時に終わります。光る「ヘルプカード」「AED」、「消火器」、「消火栓」などがあれば夜間でも続けられると思います。たくさんの人々が救われるはずですが、蓄光剤がよいかと思えますが、今の蓄光剤は20分から最大8時間で消えてしまいます。超輝度蓄光剤を使用すると10時間は光ります。これだけでもかなりの減災になりませんか。次のように提案します。

- ① 筆談でどうぞ、バッジがあれば聴覚障害者、手話通訳、要約筆記等も暗くても識別でき、安心です。
- ② 私は超輝度蓄光剤の使用をお勧めします。例えば、消火器、消火栓などの消防関係は赤の塗料、頭上注意やAEDや封鎖、立ち入り禁止などは黄色い塗料をぬればどうでしょうか。光る消火器などがあれば減災に役立ちませんか。暗いところでも10時間は作業できます。
- ③ 基本的には標識法などの法律で義務づければどうでしょうか。または消防条令で義務付けるとか。いろいろ方法はあると思います。
- ④ 導入したところには助成金をだすなどしているところもありますが、私はあえて反対します。いつかはみんなが利用する物は国民に義務としてやるべきだと思います。

- ・ **「力のある人は力を、知恵のある人は知恵を、お金のある人は寄付を」。**
- ・ **100万円あれば3500人が救われます。**
- ・ **またはこのような事業に協賛してくれるところをご存じでしたらぜひ、お知らせください。とにかく、減災を図りましょう。**

**164-0014 中野区南台 2-51-7-707 号 NPO-BCS**  
**TEL/FAX03-3380-332 equal@bcs33.com**